

ホームページ申込み

定員 160名

振込用紙申込み

会費 A

医師・歯科医師：事前受付け¥21,000 当日受付け¥24,000
医師・歯科医師以外：事前受付け¥15,000 当日受付け¥17,000

内藤先生は昨年臨床家としての集大成ともいえる「内藤正裕の補綴臨床 オーバーロードと向き合う」を出版されました。

今回は、内藤先生の臨床の根幹である咬合を中心にお話しいただきます。

- ・削る咬合調整 VS 足す咬合調整
- ・ジルコニアやインプラント等、最新材料について
- ・限界運動路ばかり習ってきたが、実は咀嚼には中間運動が重要
- ・強く咬合すると歯根膜だけでなく骨や歯も歪むので、咬合器では再現できない。その咬合をどう解釈するか。

お話しの内容のすべてが、私達が習ってきたことを超えています。

受講するだけで、「自分ももっと頑張ろう!」そんな気にさせてくれる講演会です。



講演項目

かつての咬合の主なテーマは、臼歯の咬合支持と、アンテリアガイダンスの二つであった。ところが、その原則を忠実に守った修復を作っても、歯根やセラミックが次々と破折した。犬歯は際限なく咬耗をし、顎位は変化をやめようとはしない。そして、関節の問題まで発生し、多くの臨床医は心を痛めている。そこに、インプラントという新しく、強力な手札が配られ、問題はより大きく混沌となってきた。それでも、相変わらず“咬合支持と、犬歯誘導”を頼りに、ゲームを続けているというのが現状ではないか。一体、何を見過ごしたのだろうか。どこから後戻りをして、見直しをするべきなのだろうか。(講師 記)

- ① モノを中心とした機械的な咬合論の反省
- ② インプラントの咬合が存在するのか
- ③ 生体の反応を学ぶ
- ④ 科学の認識と、原因論
- ⑤ オーバーロードの発見、認識
- ⑥ 仮説演繹法
- ⑦ 歯牙や、セラミック破折の原因は

- ⑧ 咬合の3つの局面
- ⑨ 臼歯の咬合接触が見えるのか
- ⑩ 誘導の観察
- ⑪ 最後臼歯の観察
- ⑫ Backward rotation
- ⑬ 犬歯誘導の本質
- ⑭ 咬合調整とは
- ⑮ システムとして考える
- ⑯ オーバーロードによる現象
- ⑰ インプラントと天然歯列の同調は
- ⑱ なぜ“変化”が起きるのか
- ⑲ 第三の局面とは
- ⑳ CRの再考

限られた時間で、概念と実際を全ては提示できないが、動的平衡の網に絡め取られた咬合という片目のジャックの、別の側面を覗くチャンスを作りたい。そして、若い先生方からの新しい系統仮説の提案を待ちたい。(同 記)